

## 4

## 奈良・平安時代

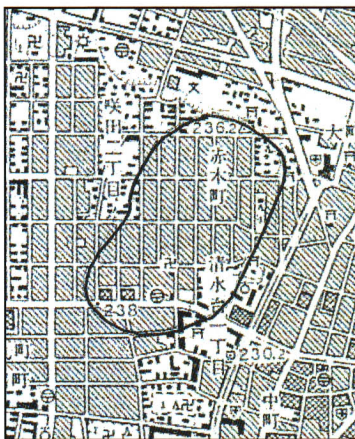


この形、どこかで見たことがあるよ…。  
いったい何だったかな。あつ、分かつた！ほら、窓から見えるあれだ。家の上にあるよね。これって、家の屋根にある瓦（かわら）じゃないのかな？

よく気が付いたね。そうなんだ、みんなの家の屋根にもある瓦なんだよ。でも瓦は瓦でも、ちょっと違うんだ。実はこの瓦は、今からおよそ1200年程前の瓦なんだよ。



▲清水台遺跡出土品



▲清水台遺跡の範囲

郡山市の古くからの中心地、合同庁舎通りと桜通りの交わる辺りから赤木小学校にかけて（左図参照）、大きな遺跡があることが分かりました。それが「清水台遺跡（しみずだいせいせき）」です。清水台遺跡は、奈良・平安時代を中心とした遺跡です。上の瓦は、その清水台遺跡の中から出てきたものです。

瓦は、今ではめずらしいものではありませんが、奈良時代には一部の建物にしか使われていませんでした。その建物とは、今の役所です。重要な建物にしか使われなかった大変貴重なものだったようです。この瓦から、この清水台遺跡が、地方の政庁（役所）である郡衙（ぐんが）である可能性が出てきました。



▲安積郡衙・厨家想像図

この瓦から、いったいどんなことが分かるのだろうか？この瓦が作られた時代、郡山市はいったいどんなところだったのだろうか？

郡山市の古くからの中心地、合同庁舎通りと桜通りの交わる辺りから赤木小学校にかけて（左図参照）、大きな遺跡があることが分かりました。それが「清水台遺跡（しみずだいせいせき）」です。清水台遺跡は、奈良・平安時代を中心とした遺跡です。上の瓦は、その清水台遺跡の中から出てきたものです。

瓦は、今ではめずらしいものではありませんが、奈良時代には一部の建物にしか使われていませんでした。その建物とは、今の役所です。重要な建物にしか使われなかった大変貴重なものだったようです。この瓦から、この清水台遺跡が、地方の政庁（役所）である郡衙（ぐんが）である可能性が出てきました。

そして、右の写真をよく見てください。字が書いてあるのが分かります。この字は「厨（くりや）」という字です。「厨」とは、今で言う「厨房」、つまり台所のことです。ここで料理を作り、中央の役人たちをもてなしたりもしたと考えられています。



▲「厨」の字のある土器

清水台遺跡のあった場所が、当時地方の政治の中心地である郡衙（郡の役所）とすると、この郡衙は「安積郡衙（あさかぐんが）」である可能性が高く、「郡山市」の名前は、この「郡衙」から付いたものです。

奈良時代の郡山市には、役所である安積郡衙があり、中央の奈良と、東北地方の中心地である多賀城（宮城県）を結ぶ重要な位置にあったことがはっきりしてきました。清水台遺跡はまだ発掘が続けられているから、これからも奈良時代の郡山市のことについて、多くのことが分かると思います。